

【事業名】アカモズ(本州繁殖個体群)生息域外保全事業
(愛知県豊橋市) 【団体名】豊橋市(豊橋総合動植物公園)

令和5年度 生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10-6

事業の背景・目的

アカモズ (*Lanius cristatus superciliosus*) は、日本のみで繁殖し、インドネシアで越冬する渡り鳥である。環境省レッドリストで絶滅危惧IB類、種の保存法において国内希少野生動植物種となっている。2022年時点で生息が確認された個体は僅か92つがいのみで、その約半数を占める長野県の個体群は近年の減少率が約40%に達し、このままでは2026年にも地域絶滅することが予測されている。有効な保全策の確立が急務であるが、減少要因は未だに不明であり、生息域内における対策のみで絶滅を回避できる可能性は極めて低い。そのため、緊急的に生息域外保全を開始し、保険個体群を形成することが必要とされている。



事業の内容

近年生息数が激減し令和3年に国内希少野生動物種に指定された国内固有亜種であるアカモズ (*Lanius cristatus superciliosus*) の生息域外保全を実施する。長野県内において繁殖するアカモズの巣から試験採卵するとともに、抱卵放棄された卵や、落下した巣などで発見された傷病雛を保護収容し、協力機関(人間環境大学等)によって豊橋総合動植物公園へ移送し、孵卵・育雛を試みる。また、卵が孵化し雛の飼育が成功した場合には、これらを始祖とする生息域外個体群の形成を目指す。

令和5年度

事業① 近縁種モズを用いた保護シミュレーション事業

・アカモズの移送・飼養繁殖技術確立のため、同所的に繁殖しているモズを対象に産卵期の卵を採卵・移送、孵卵・育雛を実施、モズ科鳥類の飼育繁殖技術及び野生下への放鳥技術検討等に活用する。

事業② アカモズの採卵による飼育個体群形成事業

・アカモズ2巣から採卵し飼育下への個体導入のため孵卵・育雛を試みる。孵化・飼育が成功した場合、将来的な野生復帰を目指し、これらを始祖とする飼育個体群形成を目指す。

事業③ アカモズの放棄卵・雛の保護事業

・抱卵放棄された卵や、落下した巣などで発見された傷病雛を保護収容した際に、協力機関(人間環境大学等)によって豊橋総合動植物公園へこれを送り、孵卵・育雛を試みる。

事業④ 遺伝子試料の管理事業

・生息域外保全の試みの中で得られた個体の組織、細胞及びDNAなどを野外個体群の遺伝的状況推察等の研究に活用するために、良好な状態で保存を行う。

2年目

事業⑤ 飼育下繁殖による飼育個体群形成事業

・前年に確保できた個体を用いて飼育下繁殖を実施。クラッチごとに人工繁殖、自然繁殖を行うことも検討し、少数のペアから多数の雛の育成を試みる。

事業⑥ 普及啓発事業

・得られた知見を基に、掲示物の作成や催しを開催。アカモズが置かれている現状や保全活動などについて周知し啓発する。

事業⑦ 野生復帰実施計画策定事業

・生息域外個体群の確保、野生復帰技術の集積、生息地環境の評価と整備、実施体制整備について検討を進め、飼育下で誕生した個体の野生復帰実施計画を策定する。

3年目

事業⑦ 野生復帰実施計画策定事業

・前年策定の計画に基づき、近縁種モズを用いた野生復帰を試行。アカモズの野生復帰に向けた手順を確立する。

得られた成果

条件の異なる放棄卵を用い、人工孵卵育雛に取り組み11羽の育雛に成功した(保護雛2羽含む、生存8羽)

【事業①】7卵採取(5羽成育)し、卵の移送、孵卵・育雛について技術検討を実施。

【事業③】放棄卵28卵(有精25卵)採取→13卵 人工孵化に成功→9羽 人工育雛に成功(6羽生存)。
傷病成鳥1羽・雛3羽 保護→2羽 人工育雛に成功(2羽生存)。

【事業④】中止卵7卵、雛6羽、幼鳥3羽、成鳥1羽の遺伝子材料を採取、保存。生存8羽のMIG解析を実施した。

【これから】令和5年度に成育した個体を用い、飼育下繁殖に取り組む。

継続する保護事業では、孵卵温度や湿度、育雛手技の検討が進んだため、初年度よりも多くの個体の成育が期待できる。

公益社団法人日本動物園水族館協会(JAZA)種保存委員会の小型鳥類作業部会の「調査種」に指定。JAZAの活動として飼育園館・施設の増強を図る。

